

夏期日本語教育報告

総括・文化プログラム報告

ディレクター
文化プログラム主任
半田 淳子

2017年度の夏期日本語教育（7月5日～8月12日）には160名の応募があり、書類審査の結果124名を合格としたが、最終的には103名が参加した。応募者数ならびに参加者数ともに、ほぼ昨年通りである。自己都合による途中退学者1名を除き、102名が無事に修了書を受領した。私事であるが、夏期日本語教育のディレクターに就任するのは8年ぶり、また文化プログラム主任との兼務も初めてのことであり、尾崎久美子教務主任をはじめ、学内の関係部署の皆様や学外の関係者の方々の多大な支援がなければ、夏期日本語教育の運営が難しいことを改めて実感した。ここに心よりの感謝の気持ちを表明するものである。以下、項目別に今年度の振り返りと今後の課題を記すことにする。

1. スケジュール

7月6日（木）が登録日で、本館2階のラウンジで受付を行ったが特に大きな混乱はなかった。午後は、食堂で関係者を招き歓迎会を行った。また、この日より看護師の勤務が開始された。8月11日（金）が最終日で、午前中に期末テストを行い、午後は歓送会を開催した。やはり6週間近くをともに学習した仲間ということもあり、終始和やかな雰囲気であった。各コースからのコメントに続き、有志による歌やピアノの演奏などの披露もあった。

今年度は、7月17日（月）の海の日や8月11日（金）の山の日も授業日としたが、大学内の施設が使えなかったり、人的支援を受けられなかったりと、不都合な点もあった。国民の祝日は、カレンダー通りに休講にする方が良い。その他に、ICUの場合は、7月と8月はオープンキャンパスに伴う代休や一斉休暇があり、教科書販売や定期試験の実施、イベントの開催などには注意が必要である。

2. クラス編成と担当講師

月曜日から金曜日までの1限から3限まで、日本語の授業を実施した。1コマは70分である。2017年度はC1からC7及びC-Sp（継承語としての日本語）の8レベルを開講した。そのうち、初級後半のC3と中級前半のC4は受講者数が20名を超えており、2セッション（C4は部分2セク）とした。合計で10クラスとなり、19名の講師（ICUの専任講師3名を含む）が担当した。講師のなかには、数年にわたって本学の夏期日本語教育に尽力してくださる先生も少なくなく、コースの運営を安心してお任せすることができた。

その一方で、多様な背景を持つ学生や学修支援が必要な学生は確実に増加しており、講師の方々には日本語の指導以外の負担が増していると感じた。一口に「支援」といっ

でも専門的な知識が必要とされるケースも少なくなく、判断や対応に苦慮する場面も多々あった。

3. 受講者の内訳

一般の学生（社会人も含む）が52名、ICUの教育交流プログラムで参加した学生が51名で、計103名である。男女比は約1:2で、女子学生が多かった。国籍は21カ国に及んだが、USAが41名と最も多く、次いで中国が35名であり、ここ数年、中国籍の学生の参加が増加している。中国籍の学生の中には、来日ビザの手続き不備で、1週間遅れて参加した学生が1名いた。

2018年度の夏期日本語教育からは「申し込み資格」が緩和され、9月にICUに入学することが確定している場合は、高校生も参加できることになった。「申し込み資格」の変更は、海外の高等学校の強い要望を受けてのことである。

4. 宿舎

ICUの銀杏寮が86名、ホームステイが9名、ソーシャルレジデンスが4名、各自アレンジが4名であった。銀杏寮は7月5日（水）が入寮日で、8月12日（土）が退寮日であったが、入寮日より前に来日した学生が1名いた。今後は、日程をさらに周知徹底する必要がある。また、退寮日を土曜日にする、8月のオープンキャンパスと重なる可能性が高いので、避けた方が良かった。

ICUの銀杏寮は基本的に二人部屋だが、学生の様子を見て、部屋割りを変えたり、一人部屋に変更したりすることも必要であった。ホームステイは例年好評だが、今年度は通学時間が長いことや交通費が高いことを理由に学生寮への変更を願い出る学生もいたので、事前説明の徹底が必要である。

5. 文化プログラム

本館2階の215教室に文化プログラムラウンジ（CPラウンジ）を開設した。開設時間は8時30分から15時までとしたが、午後は各コースで日本語の個別指導（チュートリアル）や文化プログラムもあるので、13時以降の利用は少なかった。文化プログラムとしては、基本的に火曜日が学内、金曜日が学外のイベントを企画した。その他、毎週水曜日のランチタイムは、新D館のラウンジに「会話ラウンジ」を設け、日本人学生ボランティアとの交流の場とした。日本人学生ボランティアは、5月にネット上で募集を開始したが、50名近い応募があり、キャンパスツアーやイベントの引率などの手伝いをお願いした。

なお、文化プログラム助手として、本学3年生である石塚美文、ゲン・ハイ・アーン、ゲン・ティ・ゴック・フェンの3名を採用した。文化プログラム助手は、3名のうちの1名が翌年も継続するような形にすると運営がうまく進む。また、学外のイベントには、C3の浅岡信義講師が業務の一部として引率を担当したので、いずれのイベントも問題なく実施することができた。上記の4名にはここに感謝の意を表明したい。

2017年度に実施したイベントは、以下の通りである。

日程	イベント	講師	定員	希望者
7月11日(火)	合気道	ICU 合気道部	20名	39名
7月14日(金)	歌舞伎		46名	53名
7月18日(火)	茶道	ICU 茶道部	24名	50名
7月21日(金)	座禅体験	観音院 来馬正行住職	35名	28名
7月25日(火)	書道	浅岡信義講師	24名	34名
7月27日(木)	ジブリ美術館		27名	44名
7月28日(金)	ジブリ美術館		27名	42名
8月3日(木)	日本舞踊	ICU 日本舞踊研究会 水木和歌顧問ほか	40名	22名
8月4日(金)	カップヌードル ミュージアム		25名	35名

イベントへの申し込みは、基本的には first come, first served basis (先着順) としたが、希望者が多いイベントに関しては抽選を行った。結局、ほとんどのイベントが抽選を行うことになったが、抽選の際には、学生が最低1回はイベントのどれかに参加できるように配慮した。カップヌードルミュージアムは、今年度の新しい企画であり、学生にとっては生地からオリジナルのチキンラーメンを作るという体験は大変に好評であった。ただ、場所が横浜という遠方でもあり、来年度以降も継続するかどうか未定である。また、ICU の日本人学生と交流できるようなイベントも今後は検討する必要がある。

イベントは有料のものと無料のものがあるが、支払いは現金(カップヌードルミュージアムを除く)ではなく、大学発行の証紙を用いた。この点は良かったが、図書館や本部棟が大学の休暇に伴い閉まっていると証紙が買えず、不便なこともあった。

6. その他

期間中、本学の協定校であるブリュッセル自由大学と University of California Education Abroad Program (UCEAP) の2校から訪問を受け、プログラムの概要や使用しているテキスト等について説明した。両大学の担当者からは、午前の日本語指導と午後の文化プログラムのバランスの良さ、看護師の配置やカウンセリングセンターの利用など、高く評価していただいた。また、幾つかの日本語の授業も見学されたが、コースヘッド制、ティームティーチング、チュートリアルが充実している点についても、素晴らしいとの評価を両大学から頂戴した。

日本語のサマーコースを開講している大学は他にもあるが、総じてICUに寄せる期待の高さを実感した。同時に、プログラムの安定した運営には、多くのマンパワーが不可欠である。2018年4月からは日本語教育研究センターに代わりグローバル言語教育研究センターが発足し、夏期日本語教育を統括する組織となる。これを受けて、大学全体として、今後、どのようにプログラムを支え運営していくのか具体的な道筋を示す必要がある。

教務報告

教務主任
尾崎 久美子

2017年度の夏期日本語教育は、昨年とほぼ同数の103名の受講生を迎え行なわれ、期間中、事故や災害などに見舞われることなく無事終了した。以下に期間中のスケジュールやコース概要等について報告する。

1. 期間中のスケジュール

7月5日(水)	10:00-18:00 13:00- 18:30-	受講生入寮 全体講師会 プレースメントテスト実施要領説明 寮オリエンテーション
7月6日(木)	9:30-11:30 11:30-12:30 12:45-	受講生登録 受講生全体オリエンテーション 歓迎会
7月7日(金)	9:00-12:00 昼 午後 午後	プレースメントテスト実施、C1授業開始 受講生と学生ボランティアで昼食 図書館オリエンテーション及びキャンパスツアー実施 プレースメントテスト採点及び判定会議
7月10日(月)	8:30- 8:50-	レベル判定結果発表 授業開始
7月11日(火)	12:40-16:00	教科書販売
7月12日(水)	8:40-13:50 13:40-	教科書販売 全体講師会 *以降、毎週水曜日(7月18日を除く)の同時刻に全体講師会あり
7月19日(水)	13:00-15:00	講師懇親会
8月11日(金)	午前 12:45-15:00	授業最終日、期末試験 歓送会
8月12日(土)	11:00- 3:00までに	コース報告会 成績・報告書等 提出

2. コース概要

1) 使用教科書

コース	使用教科書
C1(初級1)	『ICUの日本語 Vol.1』(第1課～第9課)
C2(初級2)	『ICUの日本語 Vol.1-2』(第10課～第19課)

C3 (初級 3)	『ICU の日本語 Vol.2-3』 (第 20 課～第 29 課)
C4 (中級 1)	『ICU 中級日本語 1』
C5 (中級 2)	『ICU 中級日本語 2』
C6 (中級 3)	『ICU 中級日本語 3』
C7 (上級)	指定教科書なし (生教材等を使用)
CSp (特別教育)	生教材等を使用した他、漢字教科書は、以下の 2 冊から受講生の希望で選択させた ① 『留学生のための漢字の教科書』 国書刊行会 ② 『Kanji in Context Workbook 1』 The Japan Times

* CSp (特別教育) は継承語系の受講生を対象としたコース。

2) 授業時間

授業は月曜日から金曜日まで以下の時間帯で行なった。但し、午後については毎週水曜日に全体講師会を開催し、個別指導は水曜日以外の 4 日間で行なった。

1 限	8:50-10:00
2 限	10:10-11:20
3 限	11:30-12:40
《昼休み》	
個別指導 (水曜日以外)	13:40 - 14:50

3) コース担当講師と受講生

コース担当講師、教室、受講生数は以下の通りである。プレースメントテストの結果 C3 と C4 コースの受講生数が 20 名を超えたため、両コースは部分的に複数セッションで授業を行なった。なお、今年度は 2012 年度より続けてきた体制を見直し、夏期日本語教育ディレクターと教務主任がコースヘッドとしてコースを担当しないこととした。

コース	教室	コースヘッド	ティーチングスタッフ	受講生数
C1 (初級 1)	H-251	貴志佳子	朝倉奈緒美	13
C2 (初級 2)	H-252	保坂明香	中尾眞木子	12
C3 (初級 3)	H-204 H-205	萩原章子	鈴木紗弓・小柳津成訓・ 浅岡信義	26
C4 (中級 1)	H-202 H-203	武田知子	中智恵子・郡司拓也	21
C5 (中級 2)	H-201	成永淑	本間邦彦	8
C6 (中級 3)	H-265	谷口かおり	宇賀持綾子	11
C7 (上級)	H-262	藤本恭子	畠山洋子	8

CSp (特別教育)	H-260	安原義博	加藤久子	4
合計			19名	103名

- * C7 (上級) の受講生のうち1名はICUの本科生で、サマー開始前の春学期に日本語J6 (サマーコースのC6にあたる) を修了した学生。
- * CSp (特別教育) の受講生のうち1名は自己都合で途中退学した。
- * 受講生のうち特別支援を要する学生は2名で、プレースメントテスト・中間テスト・期末試験において時間延長及び別室受験等の措置をした。
- * 講師名のうち□で囲んであるのはICU JLP (日本語教育課程) の常勤講師であり、下線 がついているのは、ICU JLP の非常勤講師である。

3. プレースメント

受講生が出願してきた段階で、その日本語学習歴から受講コースの予想をたてたが、以下の表を見てわかるように、こちらの予想通りのコースを受講した学生は、103名のうち36名 (全体の約3分の1) にすぎなかった。特に、ゼロ学習者を除く初級から中級、すなわちC2からC6のコースは、予想をたてるのは困難であることがその数字からうかがえる。これは、受講生の出願時期とサマーコース開始時期に約4～6ヵ月の隔たりがあるためだと考えられる。プレースメントテストの結果発表後に移動した受講生は12名であり、こちらは例年とほぼ同じ結果となった。

コース	予想	予想通り	プレース	プレース通り	受講生数
C1 (初級1)	7	5	10	9	13
C2 (初級2)	24	5	15	10	12
C3 (初級3)	28	10	26	24	26
C4 (中級1)	18	5	19	18	21
C5 (中級2)	5	0	10	8	8
C6 (中級3)	6	0	10	10	11
C7 (上級)	10	7	8	7	8
CSp (特別教育)	5	4	4	4	4
合計	103	36	102*	90	103

- * プレースの欄の受講生合計は102名で、実際の受講生数の103名より1名少ないが、それは1名がICUの本科生でプレースメントテストを受験せずにコースを受講したためである。

4. 教務・学習・学生への支援体制

1) 教務・学習支援

教務の支援は、日本語教育研究センター事務室、教務助手、授業ヘルパー、総合学習センター (ILC) 所轄のヘルプデスク・サポートデスク等により行なわれた。教務助手1名 (学生アルバイト：天王祐里・藤本瑞歩の2名が交替で勤務) と授業ヘルパー (シ

フト制で7名が交替で勤務)が教務室(ERB2-105)にて教務関係の仕事の補佐(教材印刷、本館教室用キースイッチ・視聴覚機器・パソコン・事務用品等の貸し出し、日本人学生会話ボランティアの手配、その他教員への連絡・対応等)を行なった。

授業は本館2階と総合学習センター(ILC)の語学ラボを使用した。講師室は第二教育研究棟(ERB2)の128・130の2室をあて、教務室(105)と図書室(106)も近く、教材作成や連絡等がスムーズにできた。しかし、教務室勤務の教務助手と授業ヘルパーの勤務時間が午後4時半までとされていたため、パソコン等の貸し出しの時間が短いことが問題であった。この勤務時間は、今後改善すべき点である。

2) 学生支援

図書館は、例年どおりフロアを縮小した夏期休暇体制で開館された。また、特別支援が必要な学生については特別学修支援室の支援を受けた。この他、学生の健康面でのサポートはカウンセリングセンター、ヘルスケアオフィスおよび夏期日本語教育に常駐する看護師によって行なわれた。

以上が2017年度夏期日本語教育の教務関連の報告である。些末な問題はあったにせよ滞りなく運営できたのは、プログラムに関わった全ての方々のお陰であった。殊に、プログラム開始直前の4月にディレクターと事務担当者が入れ替わったことは非常に大変であったにもかかわらず、どうにか乗り切ることができたのは、このお二人のご尽力によるものだと思う。ディレクターの半田淳子先生と、事務担当の井上諒子さんに心より感謝申し上げます。

事 務 報 告

1. スタッフ

半田 淳子	ディレクター・文化プログラム主任
尾崎 久美子	教務主任
井上 諒子	日本語教育研究センター事務室業務担当

島崎 恵理子	オフィス・アシスタント (研究所助手)
櫻井 遼太	オフィス・アシスタント (研究所助手)

天王 祐里	教務助手 (学生アルバイト)
藤本 瑞歩	教務助手 (学生アルバイト)

他、授業ヘルパー 7 名がシフト割で 1 日 1 名勤務

石塚 美文	文化プログラム助手 (学生アルバイト)
ゲン・ハイ・アーン	文化プログラム助手 (学生アルバイト)
ゲン・ティ・ゴック・フェン	文化プログラム助手 (学生アルバイト)

2. 講師名簿 (所属は 2017 年 4 月 1 日現在)

教務主任	尾崎 久美子	国際基督教大学 日本語教育プログラム 講師
C1	貴志 佳子 朝倉 奈緒美	Case Western Reserve University Lecture in Japanese Franklin&Marshall College Adjunct Instructor
C2	保坂 明香 中尾 眞木子	国際基督教大学 日本語教育プログラム 非常勤講師 立教大学 非常勤講師 Johns Hopkins University Full-time Lecturer in Japanese
C3	荻原 章子 鈴木 紗弓 小柳津 成訓 浅岡 信義	国際基督教大学 日本語教育プログラム 特任講師 University of Nevada, Reno Japanese Lecturer 国際基督教大学 日本語教育プログラム 非常勤講師 上智大学 嘱託教員 国際基督教大学 日本語教育プログラム 特任講師
C4	武田 知子 中 智恵子 郡司 拓也	国際基督教大学 日本語教育プログラム 専任講師 Sarah Lawrence College Guest Faculty Lingnan University Part time language Instructor University of Macau Part time Instructor
C5	成 永淑 本間 邦彦	University of Cambridge Instructor University of Hawaii at Manoa Graduate Assistant
C6	谷口 かおり 宇賀持 綾子	SOAS(School of Oriental and African Studies), University of London Senior lector in Japanese Saint Petersburg State University Senior Lecturer 在サンクトペテルブルク日本人補習校 Teacher
C7	藤本 恭子 畠山 洋子	国際基督教大学 日本語教育プログラム 非常勤講師 聖心女子大学 非常勤講師 早稲田大学 非常勤講師 Murray State University Senior Lecturer
C-Sp	安原 義博 加藤 久子	Carnegie Mellon University Associate Teaching Professor of Japanese Studies (Full-Time) 関東学院大学 非常勤講師

3. 2017年 文化プログラム カレンダー

月	火	水	木	金	土
		7/5 入寮日	7/6 登録 オリエン テーション 歓迎会	7/7 プレースメント テスト キャンパスツアー	7/8
7/10 授業開始	7/11 合気道	7/12 会話ラウンジ セッション	7/13	7/14 歌舞伎 (国立劇場)	7/15
7/17	7/18 茶道	7/19 会話ラウンジ セッション	7/20	7/21 坐禅 (観音院)	7/22
7/24	7/25 書道	7/26 会話ラウンジ セッション	7/27 ジブリ美術館 1日目	7/28 ジブリ美術館 2日目	7/29
7/31	8/1	8/2 会話ラウンジ セッション	8/3 日本舞踊	8/4 カップヌードル ミュージアム	8/5
8/7	8/8	8/9 会話ラウンジ セッション	8/10	8/11 授業終了 歓送会	8/12 退寮

4. 受講者に関する統計

A. 応募者内訳

応募者	160
合格者*	124
不合格者	36

* 合格者	124
受講辞退者	21
受講者	103

B. 受講者内訳

① 身分別

	男	女	計
一般受講者	16	36	52
教育交流プログラム受講者*	20	31	51
合計	36	67	103

* 〈内訳〉

University of California	14	11	25
University of Buffalo	2	3	5
University of Toronto	1	5	6
Emory University	1	7	8
Rutgers University	2	3	5
Pomona College	0	2	2
合計	20	31	51

② 宿舍別

	男	女	計
自分で用意	1	3	4
その他*	35	64	99

* 〈内訳〉

銀杏寮	32	54	86
ホームステイ	2	7	9
ソーシャルレジデンス	1	3	4
合計	35	64	99

③ 国籍

CANADA	4	SOUTH KOREA	2	USA/JAPAN	2
CHINA (Hong Kong 3, Macau 1)	35	TANZANIA	1	USA/VIETNAM	1
FINLAND	1	UK	2	VIETNAM	1
INDIA	1	USA	41		
JAPAN	2	USA/BRAZIL	1		
JAPAN/FRANCE	1	USA/CHINA	1		
JAPAN/SPAIN	1	USA/DENMAEK	1		
PHILIPPINES	1	USA/EGYPT	1		
SHINGAPORE	2	USA/GERMANY	1		

TOTAL: 103